

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（県内在住の方の部）

1 日時 令和7年8月23日(土) 13:30～16:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 17名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

それでは私の方で進行をさせていただきます。先ほど司会からありましたように、今日お集まりいただいた皆様から自己紹介を可能な範囲でお願いをします。その上で一人一人のお考えについて、簡潔にお話をいただければと思っております。それでは始めさせていただきます。

(A)

母校の同窓会の役員をしております。大分卒業して経ちましたけれども、同窓会の会議のために定期的に母校に出向くことがあり、生徒の様子も拝見しています。私達の立場としては、ぜひ別学維持をしていただきたいということです。

特長のある学校づくりを進めてくださっていて、今回も丁寧に意見を聴取していただいたりして、大変ありがたく思っていますけれども、別学校は伸び伸びと、男の子はこうだ、女の子はこうあるべきだということから解放されて、とても生き生きと活動してる様子を拝見しています。今は、文化祭の準備をしていますけれども、もちろん、女子だけで畳を運んだり、大工仕事をしたり、それから当日使う電気の量を全部割り振ったりとか、男性の力を借りたかなと思うようなことも、女子で全部やり抜いています。そういう意味では、自然にバイアスがかからないで、自分たちでやっていく力が、付いているのかなという気がします。

それからもう一つは、思春期の多感な時期ですので、高校生という一時期は、異性がいるのを辛く感じるような方もいらっしゃるのではと思います。私の女子校、女子大学の友達も、小学校を卒業して早く女子だけの学校に行きたかったと話していた人もやっぱりいるんですよね。そういう人も、今では、団地の大規模改修の役員をして、大きなことに関われるのも楽しみと話しています。

それから、中、高、大学と10年間別学で学び、「大学を卒業する時に、男性にできて女性にできないことは何もないと思って卒業した」という友人もいます。そういったたくさんいい人もいますので、別学の良いところもあると思いますので、ぜひ選択肢の一つとして、残していただけたらなと思っています。

(B)

私自身は共学に行っておりました。夫そして四人の子供が別学ですね。三人息子、そして娘が一人おるんですけれども、家族の中で共学は私だけで五人とも別学です。私自身の経験

としては想像の域なんですけれども、子供たち、夫の意見を聞いてまいりましたので、今日はですね、その辺の話を交えてさせていただければと思います。

私自身としても家族に聞いたら別学が良いと言っておりましたので、やっぱり男子と女子の脳の違いがあるので、その辺のことを鑑みると、例えば、息子は塾講師をしておりましたが、その時に、特に国語の教科は、女子に教える時と男子に教える時とで教え方を変えたという話も聞いてきておりますので、その辺のところを話していきたいと思います。よろしく願いいたします。

(C)

私は生まれも育ちも埼玉県です。独身でここまでやってきました。女一人で頑張ってきたと思っております。今は、東京に住んだり、海外に住んだり、自由に生きさせていただいたのは、今、改めて思うのは日本は、本当に平和で外国から尊敬されている国です。だから、私はこれまで自由に生きてこれたんだと思っております。

これから残りの人生はなんかどうかこの国とか地域に何か恩返しをして生きていきたいなって思っていた矢先に、こういった共学化の話がありました。遡ってその前から、LGBTとか、諸々、埼玉県の左傾化というところに関して、久しぶりに日本に帰ってきて、埼玉県どうしちゃったの、何が起きてんの、っていうのが正直な気持ちでした。

今までそういうことに一切ノータッチで政治のこともノータッチで興味もなかったし、どうせやったら何も変わらないしと思ってきたんですけれども、そのままじゃいけないよね、だって、自分の住んでる街がどんどん生きづらくなってる。多様性って言いながらマジョリティが生きづらくなっている街になりつつある。それって民主主義なのって思っています。

もろもろの事が、いくら声を上げて、選挙の公約にさえしてないことが、どんどん県議会で決められていって、声を上げてガス抜きとしか意見として受け取ってもらえていない県の方で。次は何かと思ったら、浦和高校を共学にする、何なのだろうと。私からしてみれば、浦和高校は本当に憧れの高校ですよ。浦和高校の人と付き合いたい、そんな感じですよ。私が高校の時に思っていたのは、やっぱり自慢ができる高校で、他の人からも、埼玉県で浦和高校と浦和第一女子高校があるよね、すごい伝統があって良い学校だよと皆さん揃えて言ってくれます。私の地元にはすごい立派な学校があるんだなって、改めてこの歳になると思っていて、それを無くす、何の冗談の話かと思いました。

いろいろ調べたら、汚い紙の一言、なんだか日本語が通ってないような紙で、女子が浦和高校に行けないのは差別がどうのこうのと。たった一枚の紙で、マジョリティの意見がひっくり返る。これはいかんと思って、私は独身で子供がいまけんども、未来の日本の子供たちのこれからを憂えて、本当に胸を張って生きてほしい子供たちに、そして住みやすい日本をこのまま本当に守っていきたくて思っていて、まずは選択として、共学と別学があって好きな方に行ける、それが多様性だと思っております。それをどうにかして、守ってあげたいな、後ろにいる子供たち、この日本を背負っていく埼玉県の子供たちのために守っていただきたいなって。なんか大層なこと言っているんですけど、そういう気持ちで今日は来させていただいております。明確に反対です。以上です。長くなりました。失礼いたしました。

(D)

私は、元県立高校の教員でした。

出身高校は、県北の外れの共学校です。教員として勤めたのが合計9校ありまして、最初に臨任教諭っていうんで、人が足りなくてという時に、熊谷女子高校に行けと言われました。

その前に実はいろいろな経緯があって、免許状がないのに免許状なんていないから、すぐ浦和高校に行って数学を教えろと教育局に言われたんだけど、そういうのを断っていたら、川越高校の話も断っていたら、とりあえず熊谷女子高校に行けと。そういうことから始まって、熊谷女子高校に行ったら20時間の授業を！ということで。行ってみたら、そういう経歴の人が来るという事であれば、私たちは教えられないとなって、教えていた先生がみんな逃げちゃって20時間の授業を持つことになりました。次に浦和市立浦和高校に6年、県立浦和高校に15年、それから新設校で狭山経済高校、和光国際高校、それから教頭で三郷北高校、伊奈学園総合高校、それから校長で羽生高校、最後は越谷北高校でした。

それで定年になって、教育界にいるのは拒否しまして、いろいろ話があったんですけど、他のことに生活やっています、過去の学校に、それぞれ思い入れてやったんだけど、先輩面して、校長とかそういうのに会うということも一切しないで。教員関係で付き合っているのは、退職校長会の囲碁の集まりで、私が一番強いもんですから。人数は少なくなりましたが。昔はメンバーが30人以上いたのが。集まるのがたった6人ぐらい。若い人が全然入らない。

そういうふうに教育関係の人ともほとんど付き合っていないんですけど、今付き合っているのは、高校の同級生。食事会をやったり、今度9月にやるんですけどね、15人ぐらいで集まってやっています。男性が8人、女性が7人ほどです。

あとは、浦和市立浦和高校の担任をした、私より6歳年下の生徒が私を囲む会などもやってくれたり、浦和高校の卒業生、これが一番多いですが、いろいろな関係で呼ばれて話す、あるいは一緒にご飯食べるっていうのがあって。後は学校関係では、25年前に退職したのに、越谷北高校のPTAの方々が、私が妻を亡くしたもんだから励ます会っていうのを去年、今年とやってくれています。

実は教育関係のことを退職後はほとんど知らないんですが、今話した交友関係の人は、ほとんどがですね、今のままの体制を残せ！と、こういう意見です。私の出身校の友達もみんなそうです。

私は、共学が良いとか、別学が良いとかっていうことにね、元々、こだわらないんですけど、今でもそう思っているんですけど、勤めた学校の経験からすると、どの学校もね、特色があってね、女子校は女子校、男子校は男子校、浦和市立浦和高校は経験の中で一番良い学校だと思うんだけど、最後の学校も共学で理数科がありましたけどね、それぞれ工夫して、良い学校なので、長い歴史と伝統もあるし。それを他所から、意見言われて変えろ！っていうのには反対なんですよね。そういう意味で、共学化には反対なんです。今の一律共学化にする！っていう意味はね。

一つだけ申し上げますとね、私は高校というのは大学進学だけが問題じゃなくて、全人教育が問題なんだっていうのが基本的には思っています。部活動の問題もあるしね。しかし、データとして集めることができるのは、進学成績しかないんです。数字で言えるのが。それでサンデー毎日で、いわゆる難関大学にどの学校から何人入ったっていうのが毎年出てるんですけど、それで集計してみると傾向がはっきりしてるんです。東京都が一番激しいんだけど、都立は学校群制度以降没落して、凋落に行ったんだけど、なんかいくつかの学校だけについては、特別な対応をして、やや生き返ってきたてのがあるんだけど、都立は人気なくて私立になってる。圧倒的にね。それで私立の中でも、共学と別学があって、有名校は大半が別学なんです。だから大きな、都市部の流れは、公立は信頼を失って私学にシフトして、住民とか中学生はね、しかも、共学でなくて別学という大きな流れが、そうい

うふうになっている。埼玉もいろいろな事情で別学が残ってきたんですけれども、それを廃止するっていうのはなんか間違いじゃないかなって思います。

(E)

元埼玉県立高校の教員です。

お隣のDさんの話を共感を持って聞かせていただきました。ただ、私は共学化に賛成です。働いていたころも、今、外国人の子供たちの学習支援をしておりますが、今も共学化に賛成しています。共学化に賛成する県民の声は大きくないんですけれども、埼玉県内に多数いることを県の方に是非聞いていただきたくて、参加することにいたしました。

現場で教員をしていました時に、別学でも勤務経験がありますし、どの学校でも気持ちよく仕事をさせていただきましたが、公立高校では、性別は入試の受検資格に入っていません。15歳以上で、埼玉県の場合は県内在住であって、そして中学校を卒業していること、それが受検資格になっております。性別要件はありませんし、願書にも性別欄はありません。大体20年くらい前から、受検番号も男女別に番号を変えることもしていません。入学者選抜においての可否基準にも性別は一切ありません。学校では、性別が生徒の進路、可否に関わらないように、非常にセンシティブにやっております。ところが一方では県の方の正規の受検資格にはないにもかかわらず、募集人員の段階で、男子をゼロとか女子はゼロという県立高校があるのは、やはり法律としてどうなんだろうかと。公権力が公共サービスを提供する時にやはりそこで性別というものを出していくことは、やはりおかしいんじゃないか、法的にも問題です。本来これは、1949年の高校改革の段階でクリアすべきだったんですが、伝統という名前で来る中で、やはり愛着もありますし、いろいろな事情は分かりますけれどもどうなんだろうかと思います。

次に、男女共同参画の問題として、昨年の内閣府の男女共同参画週間のスローガンは、「誰でもどれでも選べる社会を」となっております。実際は選べるんじゃないくて、チャレンジできるところということですが。

実は、これの資料は、昨年、「埼玉県の公立高等学校入学を希望する皆さんへ」という、総合教育センターが中学生に配っていた資料なんですけれども、この中にも、「県内どこに住んでいても全ての県公立高等学校に志願できます」とあります。それが毎年毎年配られていた。全県一律になってから、それが当然だっていう感覚が受け取る生徒も、配る中学校の教員も、実はあるから配ってきたのかなと。これはある意味で男女共同参画の基本に即したものです。

埼玉県は、全国で一番最初に、埼玉県男女共同参画推進条例を作った県なんですね。誇るべきことだと思います。

2002年の最初の勧告の時には、条例は出たけれども、まだまだ、私たちの間に十分浸透していなかった。今、正確な理解になってるかどうかは、まだまだ微妙なんですけれども、私個人としましても。男女共同参画って言葉も、ジェンダー平等という言葉も、人々の意識に確実に入り込んできています。そういう中で、やはり長年の伝統であるからといって、例えば今、おっしゃった本当に進学実績で全国にその名がとどろいている高校に女性はチャレンジもできない、それは不合理なんじゃないかなと不公正なんじゃないかなっていうのがあります。

あと、性の多様性の観点です。別学校ができた当時においては、性別は男と女の2種類しかないというのが当たり前のこととされていました。また、男女は同権である平等であるという意識のない時代に、それでも学びたい女性の学びを保障するために女学校があり、普通

科は旧制中学しかない、それが出発点としてあります。今、実は性別は男女に二分できずグラデーションであることが分かってきています。だからこそ、某男子校の共学化の問題を話し合う同窓会の中で、同窓生たちの中からも、「性の多様性を分かってる現在、やはり別学校の存在意義はどうなんだろうか」という意見が出ています。その意味でも、誰でも受検できる共学化っていう方向に、県教育委員会が舵を切ろうとされていることに賛成してます。そのことをお伝えするために参加させていただきました。

(F)

私自身は関西出身で25年ほど前に埼玉県の方に主人の転勤でやってまいりました。子供たちは長男は男子校を卒業して、次男は私立高校を卒業しました。よろしくお願いします。

私自身、魅力ある高校についてというのを考えさせてもらいました。変えんでええもんは変えんでええ。私は別学は必要であると考え、3点をお話させてもらいます。

1 埼玉の公立高校は自分の行きたいところに行ける。しかも別学があり選択できるというのがとても魅力的で素晴らしいです。埼玉の公立高校が人気のある理由だと思います。私の住んでいた地域では、今でも総合選抜制で校区によって、通う高校が決められていて、行きたいところに進学できません。それゆえ、公立高校は人気がなく、私立の高校へ進学する人が多いです。それゆえ、魅力があると全国からも言われている伝統のある進学実績も高い人気のある別学校をわざわざ共学にする必要が全く分かりません。

2 異性と関わるのが苦手な人にとって、共学校で思春期の盛んな時代を3年も過ごすのはとても苦痛だと思います。それゆえ、別学という選択肢はとても素晴らしいです。人生100年時代、高校の3年間だけ、男女別の学校生活を送るというのはそれほど問題があるのでしょうか。私立高校でトップと言われている学校は全て別学です。もし全て共学化してしまえば、県立の魅力ある別学高校に通うはずだった生徒たちは、無償化された私立高校に当然流れてしまうと考えるのが自然です。

3 共学化の議論はジェンダーどうとの視点だけではなく、共学化することで学校の教育目標や教育課程、伝統的な行事がどうなるかを考えた上でしていく必要があります。共学化して果たしてそれらがうまくいくのでしょうか。100年以上続いた伝統はとても重いものです。別学校が存在し続けることは、社会全体にとって意味のあるものだと思います。変えんでええもんは変えんでええ。でも変えねばならぬものは変えていく。令和8年4月からの八潮フロンティア高校のビジネス探究科などはとても良いんじゃないかなと思いました。

未来を作る子供たちに未来を育てる私たちができることは、子供たちに共学、別学が選択できるように魅力ある別学校を残すことではないでしょうか。ぜひお願いします。

(H)

私は男子校の卒業です。

まず、勧告書を読まさせていただきました。当県の別学校出身者は、すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念を持っているとして、人格形成からも問題であるとまで書かれていまして、男女共同参画を標榜する現代社会では害悪であり、存在してはならないと言ってるようにも読み取れました。

さらに言えば、共学校出身のOG、OBにはこういう概念の持ち主はいないと言っているのに等しいと。これは自分を含めて全ての当県の別学校のOG、OBひいては在校生を侮辱するものであり、甚だ心外であります。ここまでおっしゃるのであれば、きちんとした調査の上の統計に基づいたエビデンスを明示していただきたいと考えます。

また、相当数の文字数を使って教職員の男女の構成比について言及がありますが、それは別学、共学を議論する上で何の関係もないものだと考えます。あくまで県立高校の人事の問題にすぎません。そこにこの話を接続すること自体、全般的な外れだと思います。

大変恐縮ですが、自分について述べさせていただきます。自分が別学校を選んだのは、異性の目を気にせず学習に没頭できる環境が欲しかったからです。長い人生のうち、たった3年ですが、こういう貴重な時間は必要だと思ったからです。加えて言えば、異性のいない環境に置かれることで、その異性がどれだけ重要で尊重しなければいけない存在であるかということ客観的、俯瞰的に見ることができ、社会人としての基礎づくりの場として、とても貴重な時間であったと振り返ることができます。

もう大昔の話になりますが、異性が苦手というやつ、それから同性の方が好きだという今でいうジェンダーレスのやつも実際にいました。今は多様性の時代です。進路というものは全ての生徒の意思を尊重できるよう、複数の選択肢を設けるべきであり、共学しか選べなくすることがまさに時代に逆行していると思います。

しかし、この問題の発端とされる男子校に入りたい女子が本当に存在したのでしょうか。今の子供たちはとても冷静で利口です。このようなおかしい意見を県に苦情を入れるなどということはちょっと考えられません。どう考えても当県の別学校に対して、コンプレックスを持ち、極端な偏見を持つ、ごく一部の大人の策略ではないのでしょうか。重要なことは、当県の別学校が排出している人材が、現代の男女共同参画を推進している立場にたくさんおられるということです。事実、この勧告書の筆者の中にもいらっしゃいます。つまり何が言いたいのかといえば、男女共同参画推進に対して、別学校の存在は決してマイナスではないということです。

中学3年生という多感な時期に、自分の行く道を選ぶことはなかなか大変だと思います。しかし、大人はそれを強制してはならないと考えます。選択肢を揃え、彼らの自由で自発的な発想、まさに人格を尊重することが何より大切だと思います。以上です。

(I)

私はですね、男子校のOBというぐらいなんですけども、最初に勧告の話を見た時にですね、先ほど話がありましたように、男子校に女子が入れないことだっていうことで、私が気になったのは、逆に今回の勧告に関して男子がそういう女子校に入りたいと思った時に、それは何とかしてくれるんですかっていう。私個人としては自分の母校がそのまま残ってくれた方が良くかなという意味で、今回別学に関しては、個人的には反対を標榜してます。

ただ、今の子供たちがほぼほぼもう共学でいいんじゃないかっていうのであれば、それは時代の流れとして仕方ないかなと思うところもある種あります。ただ、アンケートの結果とかを軽く見させていただいて、それもないなっていう所感なんですけども。

その中で、今回、自分もですね、学校のOB会とかで反対と一緒にしませんかみたいな案内が来たりして、自分の周りの意見がですね、皆反対ばかりでですね、賛成の意見を聞かなくていう機会がなかったので、今回この場で賛成の方がどういう意見をお持ちで、それと自分の意見ということで、どっか歩み寄れるところがあるのか。方向性を決めるという意見交換の場で、自分も埼玉県民としてですね、また、別学校のOBとして、僅かでも貢献できることがあればと思い、今回参加させていただきました。

(J)

よろしくお願いします。私は、現在、埼玉県 of 臨時的任用教員としてやっているんですけども、埼玉県の別学の出身です。その中に同僚の先生方に、別学の出身の方もいらっしゃるんですけど、皆さんから話を聞くと、今のままの方がいいという意見があります。私の自宅の近くに、春日部高校があります。男子校とか女子校に特に疑問を持ってはいませんでした。男子校、女子校のままで残していくっていうのは私自身は今のままでいいっていう考えです。仮に共学になったとして、そのままだとどうせ駄目でしょうし、また共学になったからといって、例えば春日部高校に女子が入学してくるんだらうか、春日部女子高校に男子が入学してくるんだらうかっていうことはなかなか考えづらいですね。私としては、現状維持で良いと思います。

(K)

私、男子校を卒業いたしております。当時の高校を選んだ理由は男子校であったからであります。中学時代の自分を振り返ってみて、同じ教室で女子がいる、非常に、女子の目を気にした堅苦しさがありました。高校は絶対男子校を選ぶんだということで、私立も全部男子校を選びました。男子だけの環境は非常に心地よく伸び伸びした環境でありました。埼玉県には伝統的に県立浦和高校を筆頭として、川越高校、春日部高校、熊谷高校、浦和第一女子高校、男女別学校の名門校のピラミッド構造があるわけです。その下に共学校が存在しておりますが、最近、共学の大宮高校がすごく躍進しておりまして、県立御三家などとも塾業界では称されておりますが、県立浦和高校、県立浦和第一女子高校、大宮高校、これらの高校が躍進しております。やはり、県立浦和高校を筆頭として、明治から続く、浦和高校は130年の歴史があります。我が母校も長い歴史があります。尋常中学校から戦後の学制改革で高等学校になりましてもう明治からの伝統校であります。大宮高校は今年100周年を迎えます。やはりですね、別学校は埼玉県 of ですね、いわゆる、ピラミッド構造になっておりますが、別学校は名門校が多く、いわゆるナンバースクールなわけですね。この体系を、これは別学があるから、男子、女子それぞれ能力を伸ばしている面が多いと思うんです。これが共学化されてしまったらですね、それぞれその学校の個性が失われてしまう。ちょっと言葉が悪くなってしまいましたが、女子は男子の足を引っ張ってしまう可能性があるんです。県立浦和高校の東京大学への進学はですね、男子だけの環境の中で育まれているものであります。これが女子が混ざってしまったら、県立浦和高校の東大進学率は明らかに下がります。浦和高校はですね、あれだけの東京大学の進学率を保つには、浪人を辞さない教育方針があるんです。浪人をして、高校3年間、エンジョイして一年浪人してでも東京大学に入ろう、こういう男子生徒の塊なんですね。共学の大宮高校は逆に現役が多いです。ですから自分のお嬢さんが浦和高校に入れないという苦情があったようですが、そこまで見てるんでしょうか。やはり女子のお子さんは、現役合格を望まれると思うんですね。それだったら大宮高校に進んでください。せっかく共学の御三家と言われている学校があるわけですから、何も浦和高校ですね、共学化する必要は全くないです。

我が母校もですね、男子高校の中で、非常に、女子が入らないですね、環境というのは非常にですね、能力を伸ばす意味でもこれ重要なですね。これ女子が混ざったら絶対足を引っ張られます。進学が落ちます。これ明らかです。ですから、この伝統あるですね、県立の別学校、これ絶対に維持してください。

それと、今、私立高校でですね、男女別学校が存在してます。これ、例えば埼玉県も私立高校で別学校が存在します。ところが今、学費の面で言いますと、私立学校助成金ということで、私立とはいえ、かなり公的資金が入ってるわけです。それで学費の負担がかなり少な

くなっています。昔は私立高校は学費高いなってことで、県立に行った面があるんですが、今は高校無償化の路線ですね、私立高校といえ学費がかなり抑えられています。そういった中で、私立高校は共学化せよという方針が出ないのが不思議でたまりません。公的資金がお互いに入ってるわけですから、公立も私立も公的資金が入っているのに何故私立高校には共学化せよという指導が入らないのか。何故県立高校だけ共学化せよと。男女共同参画という金科玉条のもとにですね、公立だから、男女共同参画に従えというのはおかしいですし、私立にも公的資金が入ってるんですから、公教育を担う私学もですね、私立学校はそのままでもいいんですか。おかしいですよ。全然声上がってこないじゃないですか。私立高校も共学化せよ、こういう意見があればまだそうなのかなと思う。公立だけなんですよ。なんですか、おかしいです。これアンバランスです。

それと例えば、我が母校は質実剛健、文武両道です。この校訓に女子が馴染みますか。質実剛健ですよ。どんな女子が育つんですか。校訓は絶対に崩したくありません。我が母校は長い歴史があるんで。校訓を崩してまで、共学化する必要は全くないです。母校は、1.2倍の競争率もあります。進学も頑張ってます。こういった学校ですね、あえて共学にする意味はない。それと、私、この前高校野球の夏の野球の応援に行っただけですけども、スタンドがもう超満員で、我々勝ちましたけどね。やはり母校の男の応援団と、男性の大きい、まあ、お母さん方もいましたけどね。やはり男性が多いですよ。野球の応援もですね、男の応援ってすごく良いんですよ。男の友情。すごく良いんですよ。私もなんか泣けてきましてね。良い学校出たなってことで。だからこういうのをね、崩してほしくないんです。応援のね、すごく良い男の友情を感じて、すごく良かったんですよ。これを絶対にですね。崩さないでください。明治以来の伝統を崩さないでください。もしも、男女共同参画の下に進んでおるので言えば、各校に選択権を与えてください。男女共同参画の下に共学を推奨しますが、ただ実現は各校に任せますと。こういう選択もあると思うんですね。絶対にこの埼玉県の良き伝統を崩しちゃダメです。

共学化するに当たって、例えばトイレを直すとか、いろいろ出てくると思うんですけども、そういうところにお金を使うのであれば、貴重な税金をインフラ整備に当ててください。学校の設備を直すようなところに、税金を使わないで、もっと公的なインフラ整備にお金を使ってください。

偉い先生が男女共同参画とおっしゃいましたが、私が在学していたときは、男の先生ばかりでした。女の先生が養護の先生と図書館の方ぐらい。生徒も男、先生も男。こういう世界です。ところが、今、女の先生が入ってきてるんですよ、別学校にもね。そういった意味では、教育の面では男女共同参画は取り入れてるんですよ。ただ、最後の砦、生徒は絶対に別学の方が良いです。埼玉県の良き伝統を守って、私立に負けないように。大野知事は男子校の慶應義塾高校ですよ。大野知事が一番男子校の良さを分かってらっしゃるんですよ。なんでね、共学に舵を切るのか全く分かりません。良き伝統を守って、公的なインフラに税金を使ってください。あと、各校の判断を優先すると。共学化された浦和第一女子高校に男子が行きますか。考えられないですよ。女子校が共学化して、男子が入るなんてことあり得ますか。私は、そういうとこに税金は絶対使って欲しくない。公的なインフラ整備、八潮市のああいふ陥没が起きないように、公的なところに税金を使ってください。よろしくお願いいたします。

(M)

女子校出身で、同窓会役員を17年間務め、その後12年間ブランクの後、また2年間ほど同窓会の役員を務めております。相変わらず生徒ははちきれんばかりに生き生きしております。

私の考えをお伝えしたいと思います。私は埼玉県から別学をなくしてほしい。それが願いです。理由は大きく二つあります。

一つ目は、今、埼玉県は特色ある学校づくりを目指しています。まさに別学を残すということも、特色ある学校づくりのそのものの一つと考えます。

二つ目は、子供たちにとって選択肢を狭めないでほしいということです。共学の方が優れているとか、別学の方が優れているとか、という優劣の問題ではないんです。それぞれにそれぞれの良さがあるはずで。子供たちの声に寄り添う真の教育改革をお願いしたいのです。

少子化による教育行政上、たとえ別学校の数が減ろうとも、埼玉県が誇れる特色ある学校づくりの一環として別学校を残すっていうことは、埼玉県の財産でもあると考えます。以上よろしくお願いいたします。

(N)

私の意見はとにかく子供たちの意見を聞いてください。尊重してください、ただ、その一点です。

私には2歳の孫がいるんですが。孫の同期は70万人ですよ。我々の時代とは100万人以上違います。だからこそ子供は大切にされなきゃいけないし、子供にとって何が良いのかってことを真剣に考えなきゃいけない。そのポイントは子供の意見なんです。ですから、共学が良いのか、別学が良いのか、我々、大人の論議は、2歳の孫には、全くこんなことは分からないですね。ただ、孫が15歳になって、どういう状況が一番孫にとって幸せなのかと考えた時、その時の子供たちが、共学が良いよってなれば、それでいいでしょうし、別学に行きたいなということであれば、別学があってしかるべきだと思います。

私は東京出身なんですが、学校教育制度改革の被害者で、教育長のスタンドプレーで入れられた学校群制度、これが本当にひどい制度で、行きたい学校に行けるか分からないんですよ。群を受験するだけで、群に受かっても、そこからまた行ける学校は勝手に指名されて。お前当たりだな、俺ははずれだなという馬鹿な話があって。先ほどの方がおっしゃったように、都立高校は目を覆う惨憺たる有り様になりました。この時に子供たちは学校群を望んでいたかといえば、当時の日比谷高校の生徒会活動でも大反対でした。最近で言えば、いわゆる宮城の名門校も子供たちは反対していました。にもかかわらずということで、全く大人の持論で子供たちの意見も聞かずに強引に進めるということに対して非常に憤りを感じています。私は、都立ですから共学です。娘は埼玉なんですが、残念ながら女子校に行けるだけの学力が足りず諦めて共学に行ったんです。女子校OGの方々の話を伺うと、それは素敵な青春時代だったんだろうなと非常に羨ましく思います。あえて個人的感想をいうなら、もう少し入りやすい女子校を作ってくれよというところなんですけども、子供が減っていく中で、新たに何かをやるっていうのはとても努力がいることなんで、それは難しい。ただ、今あるものを失くした後に復活はもうこれは絶対できないので、これからの子供たちの中でどうしても別学が良いなって言った時に、受け皿というのはやはり残しておくべきだと思います。

埼玉県のパブリックコメントも読みました。パブコメで「共学化推進項目の全文削除」という意見に対しては、少子高齢化の中で、これはなかなか難しい問題だというような却下、Dランクをつけていましたね。ただ、その補足として、十分に意見を聞いてまいりますとい

うことで、お願いしたいのは、拙速に過ぎないでくれと。勝手な思いで、一部の声のでかい勢力が早めろと言ったからといって、今の日本にはその傾向があるので、嫌なんですけれども、今、この交換会の中でも、ほぼ意見の流れというのが見えてくるわけで、少なくとも、今は全校共学の時期にあらず、それは、今後も意見交換の機会を増やしていったら、全校共学が良いんだよという流れが起きてくるのであれば、そこで始めて共学を検討すべきではないかと。それも子供たちの意見としてです。既に、もう子供たちの会が始まっていますけれども、ぜひ共学を進めてくださいという意見は少ないように感じました。子供たちは別学も残してほしいという意見。極端な話、それが一人だけだったとしても、同じ問題なんで、その子の意見は尊重されるべきだと思いますから、断じて拙速に走らないでほしい、それだけをくれぐれもお願いしたいと思います。以上です。

(O)

よろしくお願いします。まず、この会のここまでも感想なんですけれども、共学化に賛成されている方はお一人しかいらっしゃらなくて、他の方、みんな反対なんですけれども、予めアンケートを取っていたと思うんですけど、ちょっと人選に疑問を感じたというか、ほとんど全員反対の方の意見を聞いてても、私あんまり正直言ってどうも思いようがないというか、ほとんど私の言いたかったこと全部おっしゃってるんだけなので。ここに参加させていただいた基本的な動機としては、自分と違った意見の方の意見を聞きたいなというふうに思って、参加させていただいたので、正直言ってここまでの話は全くつまらないです。別にそのとおりって思うだけなので。

ただ、せっかく来たので、私の意見を言わせていただくと、私は県立高校の教員を、44年間勤めまして、そのうち20年間を別学校で勤務させていただきました。女子校も男子校も経験しております。

どこの学校にも、必ず、この子はやっぱり別学に来てよかったな、共学に行ったら潰れちゃったんじゃないかなっていう子が一定数いました。それは男子校も女子校もです。なので明確にいじめられたとかいうのではないにしても、からかわれた、うまく馴染めなかったみたいな形でですね。別学校に来て、生き生きとして、まあ、逆のパターンもあったのかもしれないかもしれません。それから私の知らないところで別の流れもあったかもしれないかもしれませんけども、私としてはそういうふうに思ったので、結論から言うと、別学校の維持をしてもらいたいというふうに思います。

それとは別の話として、発端となった苦情なんですけれども、苦情の開示されている部分だけを拝見した段階で、あまりにも漠然としていて、具体的にどういう事情があって、どうだったのかっていうの全く分からないので、あれだけ見ても判断のしようがないんじゃないかなと思っていたら、苦情処理委員から勧告書が出てきて、あれを読むともうあたかもその全国でも数少ない埼玉県 of 公立の男子校数校がですね、我が国の男女共同参画社会の推進に大きなマイナス要因になっているかのようなんですね。さっきHさんもおっしゃいましたが、そこまで言うんだったら、ちゃんと数値的なものを出してくれと。例えば全国の都道府県の中で埼玉県だけが、男女共同参画に対する意識が明らかに明らかに低いとか。その明らかに低いことの原因は公立の別学校出身者の意見が明らかにマイナスしてるからみたいなことが出てきていけば別なんですけども。でもそんなこと出しようもないので。そういうことが明らかにあるのであれば、別に公立とかって言っていないで、国立だとか県公立だとか私立だとか全ての学校を共学化しなければ、男女共同参画社会の推進には繋がらないんじゃないのと思うんですね。数校しかない埼玉県の別学校を共学化したところで、その大きなプラス

要因にはならないんじゃないかなというふうに思います。そういう我が国における別学校がその男女共同参画社会の実現の足を引っ張ってるかどうかに関しては、鈴木宗男議員が政府に昨年質問をしていて、正式な回答としてはそうではないと。国立の学校で別学があるので、もしそうであるってことになっちゃったら大変な問題だと思うんですけど、そうではないと。別学が存在しているからって、世界の潮流である男女共同参画社会の実現にはマイナスにはなっていないというのが政府としての公式の見解だと思います。ですから、それをですね、しかもなんかよく分からない、事情の分からない苦情を処理したことで、ああいう答えを出すっていうことに、まず、疑問を感じて、もっと納得のいく事情があって、例えば生徒募集の問題であつたりとかそういう問題で、仕方なく共学化せざるを得ないみたいなことになるんだつたら、まだ納得できると思うんですけど、今の流れで、あの苦情とあの苦情処理委員の勧告で、分かりました、共学化しますというのは賛成できません。以上です。

(P)

私も、多くの皆さんと同じで、生まれも育ちも埼玉で、非常に愛着がありまして、皆さんのご意見、どれもなるほどと伺ってきました。

私は二人子供がいますけれども、娘の方が共学、息子の方が男子校に行きまして、どちらも非常に良い高校でした。埼玉県 of 県立高校の素晴らしさというのを実感している者の一人です。

今日こちらに伺った理由ですが、私は研究者としてジェンダー平等などについて研究をしまして、先ほど世界の潮流という話がありましたけれども、世界の男女別学、共学についても関心がありまして、そういう立場からも、埼玉県のいろいろな方のご意見を伺いたいと思っております。

既に上がっている論点ですけれども、やはり私はジェンダー平等ということは非常に重要だと思っています。そして、子供たちの希望や自由に選択ができるという権利というのは一番大事で、だからこそ、埼玉県の男子校も女子校も共学校も選べる、今の状況というのは非常に素晴らしいと思っております。拙速な共学化には反対です。

ただ、先ほどどなたかがおっしゃいましたけれども、別学校は、成績といいますか、偏差値という言い方をしますと、偏差値の比較的高い学校に限られていますので、選択肢ということであれば、もうちょっと幅広く女子校、男子校が選べる方が理想的であると思います。しかし、今から新しく別学校を作るというのは、やはり、難しいと思いますので、せっかく今残っている女子校、男子校があるのでそれらは残すということでもいいのかなと思います。

先ほどから「苦情」の話が出ていますけれども、今回の苦情というのがやはり大人の一人の方の目線だけであるというのが問題であると思っています。中学生、あるいは、現役の高校生の意見を聞くことが大事だと思いますが、アンケートをされたということですが、そのアンケートで中学生に共学化についてどう思いますかと聞いても、現状では埼玉県のほとんどの中学生は共学校を受検して進学をするのが普通ですから、そのようなことを聞いてもあまり意味がないですね。例えば、浦和高校に行きたい女子中学生がどのくらいいるかのアンケートは取ったことはないと思うんです。もしそれが、たくさんいる、ないしは一人でもいるということであっても、真剣に考える必要があると思いますが、子供たちの側から、子供の希望として、男子校に行きたいという女の子が、いるのかいないのか、まだはっきりと分からない状態だと思います。それで大人がいくら話をしても理想論に行くと思いますので、そのあたりの確認を、共学化を進めるということであれば、そこをきちんと調べていただきたいなというふうに思っています。以上です。ありがとうございます。

(Q)

県教育委員会の方、こういうふうに意見を言える機会を作っていただいて、ありがとうございます。

私は県民として、あと男子と女子の子供を持つ保護者として、本日参加させていただきました。県教育委員会による共学化の推進に賛成です。別学校の維持に、部分的に反対です。

詳しく説明いたしますと、男女っていうもので、大雑把に区切って男はこう、女はこうっていうものを埼玉県として、公的に決めるのは、今の保護者の感覚としては乱暴だと思われます。私も娘を育てていますが、お前んちの娘はこうだからこの学校にはいけないって言われた時に、ちょっと困るということがあります。どういうことかと申しますと、私は、男子校の卒業生でございます。母校は男子校であるんですが、そこに女子が入ってきても、全く問題ないと思います。

例えば、母校は、マラソン大会とかいって50キロぐらい走るんですけども、女子が来たら女子が来たで距離を調節するとか、そういう生徒に即した先生方の工夫っていうのは、別に女子が入ってきても、こななくても毎年、毎年、ちょっとずつやってるはずで、県立高校っていうのは変化し続けなきゃいけない。よりよく先生方は現場で工夫されていますし、女子が入ってきたら、それに合わせて対応すれば素晴らしい母校というのは別に変わんないというのが私の意見です。逆にですね、男子だけだったとしても、先生方は生徒一人一人にいろいろな細かい工夫をされているはずだと思うんですよね。それは男子だから女子だからっていうよりかは、生徒は多様だから。女子が入ってきたら、別にそれに対して適切な教育をベストな教育をするっていうことが県教育委員会っていう公的な機関が考えるべきことだと思います。それを男子だからなんとか、女子だから何とかっていうのはちょっと乱暴すぎるっていうのは私の意見でございます。

県教育委員会に考えていただきたいことは、ランキングとかピラミッド構造とか、ヒエラルキーっていうお話であって、結局、県教育委員会としてはそういうレベルのことってあんまり言えないと思うんですけども、県民の側からすると完全に偏差値とか入るときの難易度とか、どういう大学実績を持ってるかっていうことに関しては、県民はセンシティブなので、トップの成績が良い側の学校が男子校の女子校だっていうところに問題があると考えて、私はそういう意見を持っていますので、浦和高校が埼玉県内トップだと、それで男子校だということになると、やっぱりジェンダー格差を再生産してしまうっていう可能性に県教育委員会は気を遣っていただく方が良くないんじゃないかと思います。

まとめますと、今子供さんがどう思ってるか、男子校、女子校卒業生の方がどう思ってるかとかということも当然あると思うんですが、それとは別に、県教育委員会としてどういう人を、高校生を育てるかっていう、未来のことを理念的に考えていただく必要があると思いますので、男女共同参画っていうこともありますし、ジェンダー格差っていうことを考えると、県教育委員会が男はこう、女はこうと決めてしまうような今の状態はよくないんじゃないかというのが私の意見です。以上でございます。

(R)

県立高校に勤めております。

自分の意見は別学反対、共学賛成。

0-100だから、そういうふうに言わざるを得ないので立場はそういうことです。

皆さんの今の時間を見て、同じくらい喋っても大丈夫だと思うので、書いてきたものを読まさせていただきますと思います。

誰しも、自分の経験で自分の価値観で意見を言いますので、皆さんにとって不快にならないように気をつけて発言したいと思うんですけれども、先ほどのピラミッドだとか成績ってというのは、私は公立の教員という立場を表明しましたので、個人的にそう思っている、そういうことは言いません。

それから、私自身、男子校の卒業生でありまして、高校時代は結構、みんな強気な学校ですね。男子校のエリート校ですから、そういった中で育ってしまったので、自分も決して、良い人間だとは思っていないとか、どっちかっていうと、イケイケに近いのかもしれませんが、浦和高校内で共学化の報道で何か内部で議論があった時に、共学化を賛成の人に黙れっていう発言がありましたけれど、今日、発言を考えた時に、自分も高校生だったらそうやって言ったかもしれないなというふうに思うくらい、そういう雰囲気が自分自身にもあることは否定できないっていう感じがします。

5点に分けて考えてきましたので、お話をさせていただきますけれど、1点目は共学化に賛成の立場です。別学の廃止です。これはオールオアナッシング、0-100なので、そういうふうに言わざるを得ない。しかし、とても自分の経験としても男子校は楽しかったです。素晴らしい学校だったと思ったし、今もその観点は変わりません。否定するつもりは全くありません。

2点目です。自分の語りになります。埼玉県東部出身なものですから、ちょうど校内暴力の時代ですね。父親は都立なんですね。東京だから共学なんですけれども、母も別学、弟、妹も別学です。理由は簡単ですね。成績が上位なので県立では別学しかないからです。

しかし、そうは言ってもですね、私、一つの例で、私は思春期だったので女性との付き合いが苦手だったので、実は男子校を選びました。入学時の自己紹介でその旨を紹介すると、クラス中がどよめいたのです。お前は変なやつだと、なんで男子校なんか選んだんだと、来たくて来てねえよという発言が非常に印象的だったんですね。

もう一つ、当時の高校の雰囲気っていうのは、あまり学校とか先生とか関係ない、みんな気が強くて、すごい自信を持ってるのは、みんな勉強で頑張ってるからだというふうに思います。本当に切磋琢磨してました。大学進学で言えば、私の隣が早稲田、早稲田、東京学芸、外大、外大、早稲田、早稲田、立教、立教、明治みたいな。隣に座ってたのは明治を出て自民の国会議員やってますけれども、非常にそういう切磋琢磨してる環境だったので、みんなすごく自信を持って楽しかったです。

みんなからも学べたし、すごいと思いました。3年間本当に充実して個性豊かで良い友達ができました。でもそれが別学だったからなのかは分かりません。共学でも楽しかったかもしれない。しかし、いた面子はとても面白かったですね。

昔の人は別に浦和高校に対する競争意識はあまりなかったということがあります。女性との付き合いがないので、文化祭は燃えますし、交換会という名前の女子校との交流会も実施し、私自身も部活動で各校、女子校との交流をしていました。女性が学校に入ってくると、授業中も総立ちで窓際に並ぶというそういうこともよくあったわけですね。私ですから、そういうふうに捉えてですね、現在、別学の維持を言ってる高校生諸君も多いんですけど、私には強がりに思えるんですよ。当時の高校生の時に、男子校は面白いけど、別に女子がないことに対してはなんでいねえんだよ、ふざけるなよっていう雰囲気の方が強かったんで、もうちょっと素直になった方がいいんじゃないか、高校生諸君、と言いたいところがございます。だから、当時、共学化の話題が上ったら在校生は反対したか。浦和高校だって15%

ぐらい、なんか賛成の方もいるような感じですけど。ただ、自分のこの楽しい学校がなくなるって言われれば、それはふざけんと思うのはあるだろうと思います。しかし、私の隣の方が言っていましたけれど、どうして女子と一緒にもっと素晴らしい学校を作れるって発想にならないのかなってというのが残念なところですね。女の子と一緒に楽しんじゃえばいいのに。だから異性がいていいじゃん。こういうふうにして学校の中でなんないのかなって、誰か言わないのかなというところでございます。

3点目、やはり共学化というのは理念なので、理念理屈があるわけですよ。別学の今の伝統とか良さは、どうして共学化の中で活かせないのかなと。楽しい学校であることは変わらないんじゃないかなって思うわけです。この間、県教育委員会の方で行った意見交換会の報道を見てみると、生徒さんが県教育委員会の説明を聞いて、非常に勉強になったというふうに答えてるから、やっぱり子供たちに対しても共学化の理由、なんでなのかってことは、啓発をした方がいいだろうなというふうに思うところです。そして、これが私の意見としては決定的なところですけども、多様性が求められる時代になってるのに、男性、女性だけの学校を維持する必然性はない。つまり、多様性の一つの極である異性がいないということは致命的な問題だと思います。これはだから理屈です。別学校が楽しくないとかってことじゃない。そうじゃない。理屈としておかしいんですよ。駄目なんです。だって異性がいないんだから。多様性の時代に、多様性をだって守ってないでしょ。異性がいないっていうのは。それは決定的に駄目だと思います。

4点目、そうは言っても、私は県立高校共学校でしか勤務してないですけど、共学校だって同じですよ。ジェンダーギャップはものすごくあって、何も解決されてないですよ。男の子は重い荷物を持ってね、女の子は椅子とかね、机は男子ねとか、こんなの普通にやって、教員もそんな意識してないですよ。だから、別になんか共学校になったから、ジェンダー意識が進むとかっていうのもそれは別の話かなと思います。うちの息子の成績が良かったら、私は浦和高校を勧めましたけれど、レベルに達しなかったので別の県立の共学に行っただけですけど、どうだったと聞いたら、中学校の時も男は威張ってるし、女子はなんか目立っちゃいけないっていう感じがあったんじゃないのなんて言ってました。そういうもんじゃないですか。共学化したからって、問題が解決するわけじゃないですよ。だから、ジェンダーの問題もあるけど、もっと共学校においてさえ、啓発は必要だというふうに思ってるんですね。

5点目の結論です。最近のニュースでも、教員のわいせつのデータベース、それからカメラ設置が昨日あたりの新聞出てたと思うんですけども、20年前ぐらいは学校におけるスクールセクハラっていうことは、全く県教育委員会は消極的でした。当時、どっちかという男性の教員ですけど、男性教員の女子生徒に対する云々が問題になるんじゃないのと言っても県教育委員会は、全然、いや、そんなことないですよと言っていたが、20年で時代が変わったなということですよ。20年前の共学化については、県教育委員会は方針としては掲げてなかったわけだから、今回は県教育委員会のスタンスとしてやるということで、本当に大きく時代が変わったなと思います。

そのようなときに、先ほど言った通り、20年前の報告でも、学校から共学化が出てくればやるって言っていたのだけでも、全然各校やってないでしょう。だから、別学校の中においてのジェンダー教育とか、そういうのをやっぱり推進していかないと雰囲気変わんないですよ。私の知り合いの男子校に勤める若い教員が、生徒と議論したら、みんな、やっぱり共学良いじゃんってなりましたよって言ってましたもん。だから、そういうことが全然聞こえてこないんですよ。例えば、5月にニュースになったある女子校の校長先生はラジオの

番組に出た時に、ジェンダーを意識しない環境にあるから、女子校は良いよねって言ってましたが、そういうこと言っちゃダメなんですよ、校長が。ジェンダーを意識しない環境にあるのは当たり前ですよ。異性いないんだから。では、なんでジェンダーを意識しないといけないぐらい、社会全体が大変なんだって、そういうのを放置して言い方悪いけど、女性専用列車みたいなもんですよね。全部女性専用列車作れないんだから。現実対応としては、男のどうしようもないのがいるから、避難所として女性専用列車作るけど、学校は避難所じゃないんだから。学校っていうのは、様々な失敗があって、社会に出るための練習をするところでしょう。そういうふうに考えなきゃいけない。ある寺院の修行僧は、今回、みんなに言われているけれど、あれは修行僧なんで悩んでるからやってしまったんでしょう。悩んでいた者を何とかしてやるっていうふうに考えないと教育じゃないんですよ。教育ってのは指導するんだから、啓発していくんだから。だから、県教育委員会の方針がそういうふうになってんだから、私は別学校において積極的に管理職や学校の先生がもっと啓発していけば変わっていくんじゃないかなっていう期待をするところであります。

(S)

男子校の同窓会の会長を務めております。実はこの同窓会ですけども、数年前に議論がありまして、一般社団法人になっております。これはなぜかという、やはり同窓生2万人以上いて、それについて議論をきちっとしていこうというときに、社団法人化して理事をそれなりの推薦母体から推薦して決めていき、社員というのをきちんと作って、法人化しました。

それができて、今回の共学化勧告があったんですけれども、やはりその時社団法人としてどうするかということで議論がありまして、これは理事会、それからその後の臨時総会を開きました、社員総会です。いずれも圧倒的多数で、別学を維持すべきであるとの意見でした。私が、その代表者なんで、ちゃんと代表として活動せよということを強く背中を押されて、今やってるところです。個人的にも実は私は別学校の存在があってもいいんじゃないかなというふうに思っております。

今までお話出てきた中で、Oさんから、国会議員による質問主意書に対する内閣総理大臣の回答、あの時は岸田さんが答えてますけども、埼玉県において共学とするか別学とするかについては学校の特色、その歴史的経緯等に応じて判断すべきと、それがちゃんと文書の答弁書に残ってますよね。これは明らかに別学校の存在を認める答弁です。実際にも国立の高校においては、ご存知のように筑波大学附属駒場高校、それからお茶の水女子大学附属高校ということでね、この、2校について、特に大きな批判っていうのは聞かれないんじゃないかなと思います。それだけ、国の高校でも別学が維持されていると。

あと、海外に目を向けると、韓国、アメリカ、あるいはイギリスニュージーランド、そういったところで研究者が別学校の教育の在り方に、実証研究されてて、その結果を見ると、多くのところで教育効果が別学校の方が高いということで、むしろ別学校の優位性、あるいは有用性っていうんですか、そういったのが出ているという評価ですよ。だから、今後はもう少し別学校にシフトしていくべきじゃないかといった意見だと思います。こういった研究成果が出てるのは、やっぱり発達段階における男女差、男女差は当然あると思います。要するにそれを無視して、男女一律に同一教育をしていくと、そっちの弊害の方がずっと大きいことだというふうに思っております。

次に、多様性ダイバシティっていう時は一人一人がいろいろな意見を持って、それを尊重すべき社会にしていくものということになるのかなと思いますので、その中で別学は良いんだという考え方の者が受け入れられる。それがまさに多様性ある社会かなというふうに思い

ます。それからもちろんよく言われているように、個人の選択肢を広げるという観点からも必要な存在です。

一番今回の件で問題として大きいのは、昨年、県教育委員会が何万人ですか、大規模アンケート調査を実施して、その結果、現役の高校生、その保護者、共学校も含めてですが、そのうち、実に５７％強が共学化に反対、それに対して共学化賛成はわずか７％強、この差は調査アンケートを求めた中の結果なんでね、もうこれをもってしても、県民の大多数が別学維持なんですね。共学化なんか認めるべきではないと。県教育委員会さんの方は、県民の声をね、多様な声をいろいろ聞くといいながら、そのアンケート結果を全く無視して、共学化を推進する。もうそれ自体が理解できません。どうして多数の県民の声に耳を傾けないのでしょうか。

あとは、共学化の火付け役の苦情、これは男子校が女子であることを理由に入学を拒んでいるのは女子差別撤廃条約に反する、というものですけれども、もちろんこれ、この苦情自体が形式的要件を整えてないんですよ。だって女子差別撤廃条約に違反してないんですから。それは苦情処理委員も認めてるんですよ。ですから、苦情が成り立たないのにその苦情を受理したこともおかしいし。それで、さらに苦情処理委員が勧告書において、女子差別撤廃条約は、教育の上で共学化が奨励されているとまで断言してるんですよ。条約についてはね、疑義が生じないように内閣府で正式な和訳が出てますよね。その和訳に反した主張を平気でやると、共学化のみが奨励されているかのような言い方を平気で出すっていうこと自体、これは意図的に解釈を曲げて受理して、それで共学化に持って行こうという、そういうことしかちょっと考えられないのかな。もしそうだとすれば、虚偽の事実に基づいて勧告をしているという、そういうことになろうかと思います。

だから、それに則って、大野知事のことはあまり言いたくないですが、大野知事は教育に口出ししないとおっしゃりますが、県教育委員会の共学化推進っていうのはあんまりにも偏って、主張的にも極めて問題だというふうに思いますんで、その場合は教育行政のトップである知事が、是正措置をしないといけないんじゃないかとそういうふうに思っております。以上です。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

一通り皆様のお話を伺いました。この後の進め方なんですけど、どうしましょう。振り返ってみても様々な論点のお話が出てまいりましたが、進め方として一つ、私の方で皆様から出た論点の中から選択をして、それを中心に意見交換するというやり方、あるいは、もし皆様の方で、これについてはどうしても意見交換をとというようなことがあれば、お聞きをするということできたいと思っているのですが、どうでしょうか。はい、D様。

（D）

皆さんの意見を伺って、これは漏れてるなっていうことが二つあるんですけど。一つはですね、経済的な問題で、私のところに浦和高校のOBで定年退職した人たちから、こういう観点もあるよっていうことでよく言われてる大きな問題だよね。経済的な問題で、今は私学が優勢になっていると。埼玉県においても数十年前から私立と県立の競争で、県立はトータルとしては負けてきている。それは認めなくちゃなんないんですけども。

私学が今、高校無償化なんていうことを言われてるけど、私学にかかる全額を無償化になんてなるはずがないわけですよ。県立高校だって、学校によって団体会計費違うわけで、授業料なんていうのはごく一部で、私学だと例えば修学旅行で海外に行って、60万70万なんて使って行くところがいくらでもある、一つの例として。それで、私学が大学進学にもずっと優勢である。それはこの間一日かけて、サンデー毎日の記事から、コンパクトに1ページにまとめてみたんだけど、ご希望ならば、後で私のところから持っていったいいですけども、大学進学だけが高校の役割じゃないんだけど、こういうデータに取れるのは先ほど言ったように、大学進学だけが数字が出てくるんですね。

あとは甲子園によく行くか行かないかとか、そういう有名な運動部については、どこが伸びたとかってというのは分かるんだけど、一般には、どういう人柄の人格形成をしたかというのが測りにくいし、またデータがないんです。

だから、先ほどどなたかおっしゃった、別学でいると、人格形成上問題があるっていうことはものすごく引っかかって、今の知事っていうのは中学から別学だし、東京都知事もそうだし、今の総理もあるいは前の総理もみんな別学の出なんですよ。彼らに人格形成上問題があるっていうのは言えないですよ、政策で批判はあっても。

そういうことで、私学が優先になっている。そういう実態があると。そうすると私学に行った方が子供の成長のためにいいところというふうに考えた時に、家の経済力によって、私学に行けるか行けないかという問題が出てくるから公立こそ、浦和高校の生徒は金持ちがいなかったんです、みんな庶民の子供で、サラリーマンの子供で。一番多い時に医学部に55人行きましたけども、ほとんどがサラリーマンの子で、開業医の子供は2、3人しかいなかったです。そういう庶民っていうかね、経済力がなくても、いろいろ教育を受けられるという形が残ってるんだから、逆にどなたかがおっしゃった公立だから共学にしろってというのは、そうじゃなくて「公立こそいろいろな選択肢を用意して、選べるようにしてもらいたい。」という、そういう意見がありました。

それと、合わせて言っちゃったような気がするんですけども、そういう観点があるということ。経済力の問題と、また後で意見が言える時があればですけども、Sさんがおっしゃったように勧告書がね、私もよく勉強してみました。それで法律がこれに基づいているってまでいろいろ調べてみたんだけど、非常に恣意的に考えてて、判断が極端すぎる。科学的根拠がない話をいっぱい書いていますと感じます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

では、話をまた戻しますね。

これから意見交換をするに当たって、意見交換の議題ですね。様々な観点、今経済力とも絡めたお話もありましたけれども、皆様の方からご提案がありますか。なければ私の方でお話を進めさせていただきますがよろしいですか。

(N)

一回勧告書の件については、ちょっと深く掘っていただきたいなと思います。

(依田 高校改革統括監)

今、N様から提案がありました。勧告書について、意見交換をという話でございます。よろしいでしょうか。

では勧告書について、N様の方できり出していただいていいですか。

(N)

これは事務手続きの問題として、非常に疑義を感じた点があって、これはもうホームページで見られるんですけども、勧告書の「第6 結論・勧告」の部分です。訂正文が入っているんです。こんなの前代未聞ですよ。令和5年の8月に出された勧告書が、令和6年5月8日になって訂正しますと、しれっと出てきたわけです。しかもこれは自発的修正じゃないんです。知事から訳文が正しくないという指摘があったので修正したという話です。何が変わったかという、男女別学は女子差別撤廃条約上、男女別学であることだけでは条約違反とはされないものの、原文「男女共学」での教育が奨励されており、これを訂正して「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより」というふうに変えられています。我々企業人からすると、英文の解釈というのは非常に重要なことで、特に”and”でつながる条文だとか、”or”でつながる条文というものを見落とすというのはありえないし、もしそんなことをやったら始末書ものです。しかもこの原文というのが、”coeducation”これが共学ですね。”and other types of education”、これを見逃すなんてことはありえないので、最後の方もおっしゃってる通り、これはもうインテンショナルエラー、いわゆるミスリードを引き起こすための極めて悪質な文書だと私は思います。これは男女共学が良いとか悪いとかという問題ではなく、一方的な意思を持って共学化を進めるために、文書の悪質な見落とし、改ざんとは言わない、改ざんはしてないんです。ただ書くべきものを書いてないという極めて公文書としては成立しえないものだから、このミスに対する検証というものを行っているのかどうか、普通だったらします、出させるんですよ企業は。再発防止策、だって重大インシデントです。再発防止策を出さないと、またこんなような「すいません誤間違えました」が起こる、それで済むようなレベルの話じゃないので、これについて、きちんと究明すべきだと思います。さらに付け加えると、これは余談かもしれませんが、座長的な、いわゆる筆頭の武田委員という方は女子大の教員をされておられまして、その方が、男女別学を否定するというのがちょっとわけが分からない。もっと言うと、もしこの方が、別学堅持すべきという意見表明をしたとしたら、それはあなた女子大なんだからそう言うでしょうねと、やっぱりバイアスがかかって見てしまわれがちなんで、委員の人選にも私はちょっと疑問を感じている。どっちかの軸に足を置いているような方は、やはり委員になるべきではない。だからこそこういう問題が起きてしまったんじゃないかというふうに考えます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

勧告書について今、N様から問題提起がございましたが、皆様のほかのご意見ございますか。

(D)

私も何度も読んで、勧告書に訂正がいっぱい入ってるんですけども、この考え方は違うと、あるいは根拠がないということばかりなんですよね。先ほどNさんがおっしゃったように、非常に偏った思想の持ち主なんじゃないか。国民全体からすれば。そういう思想があるのは、もちろんいろいろな考え方があっていいんですけども。それを否定するわけじゃないけれども、それによってすぐ動かされて、措置報告書もよく勉強させていただいたんですけども、措置報告書は全体としてはいいかなと思うんですけども、最後の今後の進め方については、勧告書におもねったようなところがいくつかあって、特に人事のことについてね、男子校に女性の先生をたくさん入れろと、管理職もそうしろとかこう言ってるんだけれども、教員の

数で教育内容、特にこの男女の問題の教育内容、男女共同参画の問題がそれによって改善ができて進むっていうようなものではなくて、もっと本質的な姿勢の問題なんですよ。

男だけだってできるし、女だけだってできるし、人数だけで言うと、名門の女子大の学長はみんな女性ですよ。あるいは東京の御三家の女子校とか、女子校の多くもね、校長は女性ですよ。そういうのがある程度あるんでね、あるいは男女の採用を同数に近くやれって言ったら、今の義務教育なんてほとんど女性になってきてますから、これは世界の潮流なんですけど。それもおかしいんじゃないかっていう、そういうところまで発展していくんで、教育の中身を、人の数の問題じゃなくて中身の問題でどういうことを推進しましょうとか、あるいは教師の研修会を充実するとか、そういうことにいくべきなのであって。勧告書は私に言わせると偏りすぎてるというに思います。

(依田 高校改革統括監)

はい、他ございますでしょうか。

(M)

ジェンダー教育と平等とか、男女共同参画社会ということに対して別学だとそれは成し得ないのでしょうか。共学化すれば男女共同参画が進むってというのは、ちょっと単純すぎる考えなんじゃないかなって個人的には思ったりするところもあります。

Nさんが先ほど、東京都立には女子校はないんですよって言われて、埼玉県にはそれがある。男子校もある、女子校もある、共学校もある。全部共学校とか全部別学にしないって言ってない自由さがある。ここが大事なんじゃないかなってすごく思うんです。

ジェンダー教育っていうのは初等教育からなされるべきであって、例えば高校3年間を別学に在籍したからって人格がおかしくなっちゃいますか、そこはないと思います。例えば日本に住んでる人が海外に行ってみて、海外で日本を外から見るといって、例えば3年間女子だけの高校の生活を送った後、例えば共学の大学に行く、もしくは社会に出ていく、そういう中でまた振り返る機会もある。先ほどHさんがおっしゃったように、男女共同参画社会を推進して原動力となっているのは結構別学の人たちが今頑張ってますよっていう話もありました。本当に3年間別学になったら人格形成におかしくなるなんていうことこそ、アンコンシャスバイアスなんじゃないかなってちょっと個人的には思うんですね。

皆様は、そういうところを真のジェンダー教育とか、男女共同参画っていうのはどういうことなのか、本当の平等って何なのか、例えば、男性からの視線を気にせずに心理的安全が保たれた中で、そういう学校で気兼ねなくリーダーシップや専門知識を学んでということも考えられるわけですし、そういう選択肢を残しといてあげる、別学の道も残してあげるっていうのが、私としては本当に平等っていうか大事なんじゃないかなと思ってます。

だから一律共学っていうのは私としてはおかしい。それぞれの子供たちが、それぞれの意思で、こういう生活を送りたい、こういう学校生活を送りたいという中で、選べる県であってほしいと思ってます。つまり本当に別学だと、ジェンダー教育ができないんですか、別学だと人格形成がおかしくなりますか、というところに私は疑問があるんです。

そこを鑑みて、県教育委員会の方としては本当に別学がいらないのか、全部共学化しなきゃいけないのか、先ほども言ったように少子化の中で教育行政上統合したり、別学校が少し減ってしまうっていうのは仕方ない現実かもしれませんが、特色ある学校づくりを目指す以上、そこは死守してほしいんですね、別学校も残してほしいです。

(E)

私は共学化に賛成の立場ですけれども、別学を共学にしたらジェンダー平等になるとか、男女共同参画になるとか、という単純なことを言っているわけではないです。

しかし、すぐにジェンダー平等になるんじゃないなくても、現に不公正でありそこは変える。同時にどの学校でも、共学校もやっぱりもっとジェンダー平等の教育をしなければいけないです。やんなきゃいけないんであって、共学化したらジェンダー平等になるか、男女共同参画になるからじゃないと思います。

でも男女共同参画を本当に考えていくなら、やはり公立という立場であるなら、きちんと共学化していくべきですし、例えば今の政財界を作っている人たちは別学出身者多いじゃないかとありましたが、関東で生きていけるとそのように感じるかもしれませんが、都道府県立の別学校が残っているのは、わずか5県です。この中でも埼玉と栃木と群馬が、そのうちの多くを占めています。この3県は別学校が残ってることで、本当にすごく優れてると言えるのか、ちょっと前まで群馬県が一番女子校が多かったんですね。でも群馬県は、自治会に占める女性リーダーの割合が全都道府県で一番低かったと聞きました。女子校がエンパワーメントって言われますけれども、だから例えば女子校が女性リーダーを出してたわけでもないし、別学出身の人たちが男女共同参画やジェンダー平等を進めているとも言えない。

5県以外のところでは私立は別として、公立は全部共学なんですね。そこで女性がいろいろなリーダーとして育っています。埼玉だけを見ると、リーダー層の多くは別学であり、別学だからリーダーになれるとつい思っちゃうんですけれども、そういうわけじゃないと思います。

また、東大の女性比率が22～23%、なんとか増やそうと考えていますけれども、実は女子が少ないのは東大だけじゃなくて、京大もそれから慶応大も私学ですけど、いわゆる難関大学と言われて、政策決定層に学生を輩出する大学における女性が決定的に少ないのが日本なんですね。

でも世界を見ると、ハーバード大学なども含めて男女比は50：50です。でも日本は圧倒的に女性は少ないです。埼玉県でいうと、そういう難関校に入って行ける高校に、女性が入っていけない現状があります。

大きな広い目を見た時に、日本社会を変えていくには、もっと男性も女性も力をつけていきたい。そのためにはできることは地味だけれども、まずは最低限、制度をニュートラルにしていく、ニュートラルの制度とは共学だと思っています。

今性的マイノリティの方たちは、実は左利きの人と同じくらい多いと言われているけれども、性的マイノリティの人たちが高校受検の段階で、トランスジェンダーだったり、エックスジェンダーの人がカミングアウトをすることなく、行きたいところを受検できるのは共学校なんですね。公立っていうものはそういう役割を持ってると思います。

あと私は別学でも共学でも教員していましたが、どの学校でもすごく生徒たちはもちろん辛い子も同じようにいるけれど楽しそうです。だから別学にいた人は楽しかったら別学だから楽しいんだと思うようだが、どんな成績であろうと、楽しい学校を、ここにきてよかったと思える学校を作りたいっていうふうに教師は思っています。その上で、これから先の社会を考えた時に県が共学化を公立の使命として考えていくということは、とても大事だと思っています。

男子校の新聞部の生徒たちにインタビューを受けました。二人のうちの一人は男子校だからここにきた、もう一人は成績でここが一番自分に適してるから来たんだと。でも周辺に、共学化がこんなに話題になってるのに、共学賛成の意見を誰もいないので聞きに来た。疑問

点を含めていろいろ聞かれて、2時間近く話し合っ、こちらも自分は偏見持ってたなと思いましたし、その子達も分かるところは分かったと。後で新聞の社説を読みましたら、宮城県のこととか、福島県のこととか、自分たちはもっともっと学ばなきゃいけないってことを書いてくれてます。さすがだなんて思いました。

だから県教育委員会が、参加者が少なかったようで残念ですが、中高生たちの意見交換会を設けられるのいいと思いますし、現場の教員たちも、大人として子供たちに、自分が考えているところをもっともっと、賛成であれ反対であれ出してほしいなと思っています。子供たちは柔軟だし考えるし成長していきます。そういう機会にしてもらいたいと思います。

（依田 高校改革統括監）

勧告書の話から展開をしてまいりましたが、ここでもう一度確認します。勧告書のことについてのご意見はよろしいでしょうか。ではC様。

（C）

これ質問でなくちょっとお願いなんですけど、勧告書に質問書がありますよね、あの鉛筆で殴り書きしてあったあの質問書。そこのお名前が黒塗りですよね。県民としては知りたい。そして、その出した人と、それを受け取った3人がいますね、男女共同参画苦情処理委員。その方々と、質問した方の関係性を私は正直言って疑ってるんです、一県民として。

だから質問で鉛筆手書きで書いた一枚ありましたよね、浦和高校に入れないのは…。どういう立場の方なのか、本当にお子さんが女性なのに浦高に入りたいって思ってる方なのか、埼玉県民の方なのか、何歳なのかっていうのを、一県民として知りたいと思っています。それはこの勧告に関しての要望です。

（依田 高校改革統括監）

勧告書についてはよろしいですかね。はい、ではH様。

（H）

今勧告書を読んでいるんですけど、ここに書いてあることは結構大事なことで、男女別学校の共学化を早期に実現する必要があるという要望が知事及び県教育委員会に提出されたって書いてあるんですけど、三つの市民団体って書いてあります、これどこですかって話です。それを書かないのはとても疑問があるんですよ。ぜひこういうのを書くときってどこどこどこがってというのが書いてほしいなって思います。

（依田 高校改革統括監）

記載については事務局において確認します。

確認している間に、皆様から今出てきたお話について、私の方でお話ができる範囲で話をします。まずN様から最初にあったお話は、これは苦情処理委員の事務局をしている県民生活部の方に私の方からお伝えします。そのような意見がこの会議で出たことについて伝えます。

（N）

ぜひ再発防止策を出させてください。重大な誤りです。

(依田 高校改革統括監)

悪質な見落としだという評価と併せて再発防止策について講じるべきだという意見ですね、分かりました。それと、そもそも武田委員は女子大で委員の人選自体に問題があるというご意見ですね。

(N)

この問題を語る立場ではない人だということです。

(依田 高校改革統括監)

処理するのに適した人選ではないってことですね、分かりましたお伝えします。

D様からあった、全体としてはいいかなとは思いますが、特に人事について思っているというところについて、これは報告書の中身の方なので私の方からお話をさせていただきます。

人事については私どもも、これがジェンダー教育の推進につながるかというのは直接的な話ではないと思っています、教育の中身の話ではないと思っています。ただ一方で、男女共同参画を、教育行政として進めていくには、様々な機会に女性と男性の双方が入って参画する必要があるとは考えています。それは学校以外の県教育委員会事務局も同じ考えです。そういった意味とは別に、男性、女性、どうしても女子校ですと修学旅行にしても体育祭にしても、女性教員が多く必要になるという実情があります。男子校も同様です。宿泊学習などをするのに、男性教員がやはり必要だということもあります。そういったことから「同等」という言葉をあえて報告書の中では使わないでおります。

男女の人数の「同等」とか「均等」という言葉を避けて、「均衡」という言葉を報告書の中で使っております。「均衡」というのはそういうことを加味した上で、必要な男女の構成比を考えていく、「均等」ではなく「均衡」という言葉をあえて使っておりますので、そうした意味では学校の実情をしっかりと踏まえた上での男女の構成比ということ県教育委員会は考えているということをご理解いただければと思います。

M様の方から、男女別学を共学化することにより、男女共同参画が進むのか疑問であるという趣旨のお話があったと思います。県教育委員会の考え方ですが、別学校を共学化することによって、男女共同参画社会に直接的影響がそれによって及ぶとは思っておりません。

県教育委員会が考えているのは、男女共同参画社会においてこれから生きていく生徒にプラスになる教育をするという意味で、男女共同参画の視点に立った教育を推進しますという言い方をしておりますので、そこはM様の考え方と、私どもの考え方は一致点があるように感じております。

E様のお話については、現に別学校を共学にしたら、男女共同参画が進むとは言っていないという意味では一致してるかと思えます。現に不公正であるというところについては、県教育委員会としては、現在男子と女子の教育機会の均等は、一定程度図られていると考えておりまして、完全に公正だとまでは申し上げないんですが、不公正とまで言い切る状況にあるとは考えておりませんので、一部男子には入れない学科があったりすることは事実でございますので、そうしたことについては今後十分県教育委員会としては留意していく必要があるという見解を持っております。

C様のお話につきましては、正直私も全く分からないんです。少なくとも県民（県内に在勤、在学している方を含む）であることは間違いのないと思います。県民以外に苦情を申し立てる権限がありませんので、ただそれ以外のことについて全く私も分からないので、申し訳ございません。

(C)

そういう疑義があるってということだけは伝えていただいて。

(依田 高校改革統括監)

先ほどのN様と合わせてお伝えします。

(C)

合わせての話だと思います。意見を出した人とそれを揉んだ方々がつながってたんじゃないかと一県民としては思っちゃうんですね。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。オブラートに包まないでそのままでお伝えするようにします。

(C)

私もそのまま言います。つながってるんじゃないかって、一県民としては思っちゃったんで、それはもうそちらに持ちかえっていただいて、オブラートに包まずに伝えていただきたいなど。

(依田 高校改革統括監)

はい、県民生活部に伝えます。

(S)

【第三者の個人情報に関わる内容のため、S及び参加者の同意により削除】

--

(依田 高校改革統括監)

皆様提案です。今のS様の発言は議事録から削除させていただいてよろしいでしょうか。S様よろしいですか。

(S)

もちろん、はい。【参加者から賛成の声有】

(依田 高校改革統括監)

事務局の方で、先ほどのH様からあった勧告書について確認ができたということなので説明をお願いします。

(事務局)

勧告書の記載の部分で、令和5年8月の勧告の記載の中に「三つの市民団体から男女別学校の共学化を早期に実現する必要がある」という要望が知事及び県教育委員会に提出された」という表現があるとのことでしたが、こちらについては項目として、平成13年度勧告以降の埼玉県における動向ということで、その当時のことを記載している部分の記載という確認ができました。以上です。

（依田 高校改革統括監）

H様それについても、ご意見はお伝えするようにいたします。市民団体の名称ははっきり明記すべきであると。

（S）

今の点ですけれども、共学ネットさいたまが一番の大きな市民団体であることはもう間違いなくて、知事も会見に応じてるじゃないですか、そこはもう明らかになってるわけですよね。

（依田 高校改革統括監）

今のH様の話は、明示するかどうかの話なんで、そういうことでお伝えします。

続いて、意見交換をしたい内容がございましたら、ご発議いただきたいと思います。はい、H様。

（H）

私事で恐縮なんですけど、私の家内、義母、義理の妹、3人女性がいますけど、全部同じ高校なんです。そこが共学化しました、静岡なんですけど。

そこで大きな問題が起きたのは、まず校是が変わる、校是が変わると今度は校歌が変わるんです。校歌が変わるっていうのはもうほとんど違う学校になるんです、OB、OGに言わせると。同窓会とかに出てみるとすごく思うんですけど、みんな同じ歌が歌えるんです。子供から80何歳の人まで。そこで一体感みたいなものがあるんですけど。それを妻からそういう話を聞いて、じゃあもう別の学校だねっていう話になったんです。同窓会のお誘い状みたいなものがずっと来るんですけど、妻は全然行きません。もう別の学校になってしまっているみたいなことで、実際同窓会ですが、女子校なので女子ばかりなんですけど、もうだから愛校精神っていうものがなくなってしまう。そういう事例があるっていうことを、ぜひ頭の中に入れておいていただいて、それでもやりますかっていうことをちょっと言っておきたいなと思ってます。

（依田 高校改革統括監）

今のH様のお話ですが、皆様の方からそれについてのご意見や、また別の観点からのご意見とかございますでしょうか。K様、お願いします。

（K）

今すごく良い意見を言っていていただきまして感謝いたします。

私の出身校は質実剛健、文武両道であります。やはり女子を仮に受け入れたとなると、同じように校訓を変えざるを得なくなります。先ほど高校野球の県予選の応援のことも申し上げましたが、やはり男子校特有の応援の伝統があるんです。幸いにして勝ったんですけど、

今予選で勝っても校歌が流れるんですね、観客の皆さんが肩を組んで校歌を歌いました。あと応援指導部っていう伝統的なクラブもあるんですけど、すごく一体感があって、やはり男子校って良いなって改めて思いましたね。ですから今おっしゃったように質実剛健だと女子を受け入れた場合やはり変えざるを得ない。あわよくば校歌も変えるとなると、私も絶対もう野球の応援にも行きたくないし、同窓会にも出たくありません。

いずれ同窓会にも、終活の中で寄付をするとか、そういうことも考えてるんですけども、女子を受け入れた母校に寄付はしたくありません。そういった弊害が出てくるんですよ。

先生を経験された皆さん意見をおっしゃいましたけど、ジェンダーとか男女共同参画とかですね。私にとってちょっと難しいんで、ちょっとよく分からないんですけども、大半の方々は学者じゃありません、大半の県民は一般県民です。先生、経験者のような、素晴らしい頭の良い方ばかりではありません。感情的に母校を失ってしまうような気がするんですよ。

女子校の方も同じだと思います。別学で育った方が異性を受け入れるのはですね。先ほど私インフラのこと言いましたが、いろいろ校舎だって変えなきゃいけないと思います、トイレ問題とか。八潮市の下水道陥没を見ると、やはりもっと他のところに貴重な税金使ってくださいって言いたくなります。

共学も非常に精神としては素晴らしいと思います。今日主催いただいてるのは教育局魅力ある高校づくり課の方々です。魅力ある高校というのはオール共学では絶対にありえません。魅力ある高校っていうのはいろいろなタイプの学校があって、私のように異性が苦手で中学の時結構異性に泣かされたといいますか、そういう面もあったので、もう高校は絶対男子校に行くんだと、男子の中で伸び伸びやるんだと、こういう方が時代は変わっても絶対にこれからの進路選択の中で要望があるわけで、そういった要望を私学に任せていいんですか。駄目ですオール共学は絶対ダメです、これは私学に全部任せることになってしまう。私学は別学で行くんでしょうから、教育方針がありますから。

でも、貴重な税金を入れてるんです最近。父母負担軽減とか。だから、我々の頃の私学は本当に学費高かったけど、今は私学で学んでも税金が入って安く学べる中で、男女別学の需要を全部私学に任せていいんですかということで。逆にさっき、別学校は埼玉、栃木、群馬しかないとおっしゃいましたが、それでいいじゃないですか。逆に考えてください、必要なんですよ。埼玉、栃木、群馬にいることを誇りに感じましょうよ。

埼玉、栃木、群馬しかないじゃなくて、だけなんだと。この貴重な伝統を守りましょうよ。OBが断絶していいんですか、我々にとって非常に残念です。税金は他のインフラに使いましょう。

(依田 高校改革統括監)

はい。それではP様お願いします。

(P)

埼玉県の誇りということで受け継がせてもらいます。今私たちはこうして、男女別学を維持するか、共学にすべきかという議論ができています。実は今までそんなに日本全国でもきちんと議論されてこなかった問題だと思うんですね、世界的にもそうだと思うんです。

戦後日本は公立の学校を共学化していくっていう、それが良いものだってみんななんとなく思って、共学化が進んだのだと思うのですが、なぜそれが良いのか、なぜ別学じゃ駄目なのかっていうのを改めて、埼玉県で今こうして私たち大人あるいは中学生高校生それぞれが話し合いの場を設けているということ、これ自体が非常に素晴らしいことだと思います。既

に共学化が進んでいる東京都ではこういう議論ってないと思うのですね。埼玉県ならではの議論が、さらに、別学か共学かという問題を超えて、良い教育って何なのか、子供たちに何を残していくべきなのかという教育の本質の話に繋がっていく。こういう機会を持っていること自体がとても貴重なことなので、もっともっとこの議論を広げたい。別学が残ってるからこそこの議論が今、埼玉県でできている。小学生からやってもいいと思いますけれども、この話をきっかけにして、自分たちがどこに進んでいくべきなのか、あるべき未来の姿というのを話す、良い機会にできたらいいのかなというふうに思いました。

それから、先ほどの「伝統を守る」という話にしても、それがすごく良いことにもなるかもしれないけれども、そうじゃないかもしれないという議論をしたっていいと思うのですね。良い伝統もあるし、ジェンダー平等にとってはだめな伝統もあるかもしれないけれども、それを話し合う機会に、私は今日居合わせることができたこと、非常に幸せなことと思います。ありがとうございました。

（依田 高校改革統括監）

ほぼ定刻の4時になりますが、これまで、特色ある学校づくりの共学、別学との関連の話であるとか、トップ校に別学しかないからそれがジェンダー格差の再生産になるというようなお話だとか、発達段階における男女差、男女同一の教育の弊害のお話だとか、皆様からいろいろなお話がありました。

本来はそういったところにも焦点を当てて、皆さんのご意見、また県教育委員会の考え方についてお話をできればよかったのですが、お時間になりました。大変申し訳ないのですが、この議論をそのまま、今手を挙げられた方までにさせていただいて、おそらく4時を過ぎてくるとはと思いますが、皆さんご承知いただいてよろしいですか。

（S）

統括監からはお話はないんですか。

（依田 高校改革統括監）

最後私が、簡潔に県教育委員会の考え方は述べさせていただこうと思いますが、今手が3人から上がってますので、4時過ぎることをご理解いただいた上で、ご予定がある方は中座していただいて結構でございますので、3人の方にお話しいただいて、最後にいただいたご意見と県教育委員会の考え方をまとめて、私の方でお話をさせていただいて終わりにさせていただきたいと思います。それでは、〇様お願いします。

（O）

実際に共学化するかどうか決まるって議会を通りますよね。県議会議員の人たちに我々の意見を聞いてほしいんです。ここで県教育委員会の言ってみればお役人の方々にいくら言っても、結局県議会議員が動かなければ、どうにもならないと思うんです。なので、自分が言いたいってわけではないですけども、高校生や我々の意見を聞いてくれるのは教育局の人たちなんだけど、実際決めるのは議会になっちゃって。

私が知ってる範囲では、ギャップがあるというか、結局決めるのは議員さんというふうに私は思っているので、議員さんは分かってるのか、分かってるけどどういうパワーバランスで決まってるのかが疑問に思っているので、それもちょっと、難しいかと思うんですけど考えていただければいいかなと思います。以上です。

（依田 高校改革統括監）

一通りと思ったんですが、今の〇様の話に私の方で、お話をさせていただきます。この件については、男女の別学、共学は県教育委員会規則で定められているものなので、一義的には議会ではなく県教育委員会だけの判断となります。ただ、今〇様がお話になられたことは、そのとおりであって、議会はやはり県民の代表の方ですので、皆様方からご意見をいただいているのと同様に、議会の各議員や、また各会派からの意見は私ども、十分意見を聞いていく必要があると思っております。そういった意味では、議会の方のご意見も含めて、私ども県教育委員会は十分検討させていただいた上で、最終的に別学、共学は県教育委員会の規則で定めておりますので、県教育委員会が責任を持って判断することになってまいります。

今のお話については、議事録を公開しますので、〇様のお話も議員の方に見てもらえるように、私の方で議事録について、お声がけはさせていただきたいと思いますが、議会は議会の判断になりますので、そこはご了承くださいたいと思います。

（S）

現在埼玉県の場合は自民党が共学化に賛成ですから、議会の多数派が共学化なんですよ、ちょっと普通の県議会と違います。

普通は右の方の人たちが別学と親和性があるんですけど、埼玉県議会はまったく、いや、左の人は共学化ですけども、右の方の人も大多数がそうなんです。ある意味県議の意向でもあるんで、安心して共学化できるというのは、県教育委員会の姿勢のような感じがしてますね。

（依田 高校改革統括監）

それでは、N様お願いします。

（N）

私が冒頭に申し上げたのは、子供たちの声を聞いてください。子供たちの声をとにかく大切にしてくださいということなんです。その子供たちの声が端的に現れるのは、アンケートでもなくて、意見交換会でもなくて、競争率なんです。その学校に行きたいという子供たちの総計。それが子供たちの声ですよ。それで仮に、大宮高校が突出した志願者数となって、他校とのバランスを著しく欠くということになれば、じゃあ4校を共学にして、その辺の受験の過熱を防ぐよう図ろうかという意見はあっていいと思います。また、同じように浦高なり一女が、競争倍率1を切りましたと。やっぱり子供たちにもう別学が嫌われている、もう立ち行かない。そうなった時にも、これは伝統なんだ、別学は大事だ、残すべきだという意見があっても、私は賛成できない。それは子供たちの意見だし、子供たちがそう思っているのであれば、これは浦高も一女も共学になるのが時代の流れということになるので、大人のノスタルジーでそれをどうこうするのはやはり間違い。とにかく注視していただきたいのは受験競争倍率、これが1を切るようなことがあれば、やはり別学は否定されているんだ。子供たちには受け入れられてないんだという判断はあってしかるべきだし、周りの大人もそこは受け入れるべきだと思います。

もう一点ちょっと長くなり申し訳ありません。私は、学校群の被害生徒なんです。それは何があったかっていうと、理念だという押し付け、これが極めて危険です。というのは僕の時でも100万人以上の受験生がいたわけで、受験戦争が加熱している、一校集中してる、そういったことを平準化し解決するという、非常に美しい教育理念のもとに学校群制度が発

足したんです。しかし、結果はもうご存じの通りで、僕は全然そんなこと望んでいなかったにもかかわらず学校群が強引に進められ、未だにそれは15の蹉跎です、だって行きたい学校を選べないんですから。そういう制度変更による不幸な思いをこれからの子供たちに味あわせてはいけません。理念というのは一方の側だけの理念です。万国共通の理念なんてありません。だから多様化なんで、そこをもっと慎重に扱ってほしいと思います。以上です。

(D)

ちょっと話が違うところなんですけど、新聞で前に中学生とか高校生の話を聞く時のダイジェストみたいなのが載ってたのを見たんですけども、行政側からの説明で、これから少子化していくと、新しい学校を作るのに共学以外は難しいんだと。まあ新しく作る場合は確かにそうでしょうけれども。

私、大学が仙台だったんです。だから宮城県の学校を出た友達がいっぱいいて、東北の出身の人が大学全体で約半数だった。約半数は関東から全国に散らばってましたけれども、それであちらの学校の状況がある程度は知ってるんですけども。今、福島県以北で別学がなくなりましたよね。最後になくなったのが宮城県、福島県が私がもう退職して、ここ10数年の間でしたよね。それで共学になった、特に女子校が少なくなったっていう群馬の話もありましたけれども、その共学になった、数の上では。大半が少子化によって、それぞれの田舎の学校が、規模がどんどん小さくなって維持できなくなったから統合すると。

統合する時に男子校と女子校が統合すると共学にせざるを得ないと、その共学化がかなり多いと思うんですよ。だからそれは、みんな共学をどんどん進めているっていう時に背景は何かっていうことを、ちゃんと理解してほしい、調べてほしいっていうのが一つと、その人口減ではまだ統合しなくてもいいところの、ある意味では伝統校ですね、伝統校を男女別学だったのを共学にしたのは、宮城県と福島県のある部分なんです。全体じゃないんですよ。だから埼玉県に今度当てはめて、埼玉県で少子化だから、20年後50年後のことを考えると全部共学にしなくちゃならないっていうのは、それは地域によってね、小鹿野からいろいろありますから。それはあの地域によってはそういうこともあるけれども、必ずしも、少子化だから、共学にしなくちゃなんないんだっていう説明は行き過ぎではないかなと。特に県南部でというふうに思いますので、あまり少子化を旗印に、理由にしないでもらいたいなというふうに思っております。

(依田 高校改革統括監)

長時間に渡りまして、ご意見をいただきまして大変ありがとうございます。皆さんからいただいた意見につきましては、教育委員としっかりと共有をして、今後の県教育委員会の仕事を進める上での参考にさせていただきます。

いろいろ今もご意見をいただきました。特にH様ですね、共学化した後の学校についてのお話がありまして、K様には、大変熱い思いを伺いました。そうしたことも十分、私ども県教育委員会は考えていく必要があるものと考えております。最後に、県教育委員会の昨年出した報告書、また今回この3月に、魅力ある県立高校づくりの方針という方針の中で盛り込んだ考え方について、皆様にお話をさせていただいて、その上で皆様方からいただいた今日のご意見をしっかりと受け止めてまいりたいと思っております。

先ほどS様からあった、男女差ですね、男女同一の教育の弊害というご意見もございましたが、県教育委員会は、男性用の教育と女性用の教育ということではなく、教育については男性、女性変わりない教育を進めることを考えております。その上で私どもとしては、別々

にその教育を行おうとしているわけではございませんので、男女ともに学ぶことに優先順位を置いている考え方でございます。

今日もいろいろ特に別学校のOB・OGの皆様からは様々、別々の思い出も含めてご意見をいただきました。現役の高校生からもたくさんこの一か月の間伺ってまいりました。

そうした別学の、伸び伸びとか、生き生きとか、またシェルター的な機能であるとか、そういったものについて県教育委員会は、そこは別学の特長として十分、別学の意味があることとして捉えております。その上で学びの選択肢の話になりますが、県教育委員会はそういう意味のある別学も一つの選択肢として当然考えているので今設置をしているわけですが、私どもの進める学びの選択肢という考え方は、希望と能力に応じた学びの選択肢というふうに言っておりますが、普通科もありますし、農業、工業、商業、様々な学びがあるかと思えます。普通科の中でも様々な特色を持った学びが今後必要だと考えております。その中でさらに能力に応じた学びの選択肢が必要だと思っております。

D様から少子化をことさら理由にすることは納得いかないという趣旨のお話がありました。私どもとして全県を俯瞰して高校の再編整備をこれから、昨年生まれた子供が高校になるまでの15年間を考えると、全県的には約25%の子供が減少してまいります。そうした中で、高校の再編整備を検討していく中では、南部地域も北部地域も全ての地域の学校の再編が必要だと考えております。それはもちろん少子化だけではございません。新たに情報科やAI、その他にも定時制通信制、フレキシブルなライフスタイルに合った学校など、いろいろな視点があると思います。国際教育も必要でしょうし、そのような様々な新たに必要になる教育内容なども加味しながら、学校数が減っていく中で、学校の学びの種類を、選択肢を増やしたい。さらにそこに能力に応じた選択肢をまた用意したいと。そういう中で全県を俯瞰して、南部地域から北部地域まで変わらず見ていく必要があると考えております。

そうした中で、男女別学校の共学化というものも併せて、共学校と同様に別学校も再編整備の検討の対象校になっていくものと考えておまして、県教育委員会が、これまでは共学化についての検討を学校がした場合は、その支援を県教育委員会はするという方針だったわけですが、今お話したような状況の中で、県教育委員会が主体的に共学化についても検討していく方針にさせていただいたところでございます。

検討を進める中で、子供の声、また県民の皆様の声、そうしたものをしっかりと受け止めながら、私どもは再編整備も含めて、この共学化の問題に今後向き合っていきたいと考えております。

とりとめのない話になって申し訳ございません。時間が15分ほど過ぎてしまいました。進行がうまくいきませんで申し訳ございませんでした。私の話は以上になりますが、本来は私の話に対してもまた異論反論、皆様からいただかなければいけないんですが、お時間がございません。もしまだ言い足りない、また最後の県教育委員会の話についても異論がある場合については、お時間がある方は、できればアンケート用紙にご記入いただきたいと思います。ご記入いただいた内容についても、しっかり県教育委員会の中で情報を共有して、受け止めてまいりたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。